

性感染症について

1 性感染症とは

性感染症とは、性器クラミジア感染症・淋菌感染症・梅毒・性器ヘルペスウイルス感染症・HIV 感染症・B 型肝炎等の、性行為で感染する病気の総称である。原因となる病原体は、ウイルスや細菌・原虫などである。

区では、性感染症の早期発見・早期治療のための各種検査を実施している。さらに、性感染症に関する正しい知識の普及啓発に努め、区民が性感染症の予防行為ができ、性感染症への差別や偏見が生じることのないように努めている。

2 HIV・AIDS

1985 年（昭和 60 年）に日本人で初めて AIDS 患者が発見され、その後、HIV 感染者、AIDS 患者は増加したが、近年、HIV 感染者、AIDS 患者数は横ばい傾向である。

HIV 感染者数は、20 代から 30 代に多く、AIDS 患者数は、30 代から 40 代に多い。性的接触による感染が約 89% であり、東京都では同性間での感染が 76.5% を占める状況である。

新規 HIV 感染者数

	H24	H25	H26	H27	H28
世界	220 万人	210 万人	210 万人	210 万人	
日本	1002 人	1106 人	1091 人	1006 人	1011 人
東京	369 人	359 人	415 人	364 人	367 人

新規 AIDS 患者数

	H24	H25	H26	H27	H28
世界	1090 万人	1290 万人	1500 万人	1700 万人	
日本	447 人	484 人	455 人	428 人	437 人
東京	92 人	110 人	97 人	71 人	97 人

治療薬剤の改良が進み、早期発見、早期治療をすることで、現在は AIDS 発症に至らないケースがほとんどである。無症状の時期の感染は血液検査によってのみ明らかになることから、現在の対策としては、若い世代（高校、大学等）に対する普及啓発、早期発見のための無料匿名の検査や相談を実施している。

また、発症しても適切な治療により慢性疾患と同じように普通の生活を送ることができるため、高齢の HIV 患者が増えており、介護事業者に対する教育などを実施している。

3 梅毒

梅毒は性感染症の一つで、梅毒トレポネーマという病原菌に感染し、感染後の期間により症状が異なる疾患である。早期治療により治癒するが、発見が遅れたり、治療せず放置したりすることにより、脳や心臓に重大な合併症を起こす。日本では、1987年（昭和62年）をピークとする流行後は減少してきたが、2013年（平成25年）より増加してきている状況である。男性は、20代から40代の患者が多く、女性は、20代前半に多い。都内では、過去5年で6倍に増えており、感染者は男性に多いが、女性は、過去3年で3倍に増えている。

対策として、無料匿名のHIV検査と同時に受けられる検査、予防に対する普及啓発を実施している。

4 相談・検査

HIV検査・クラミジア・梅毒の検査を保健所において、無料・匿名・予約制で年間20回実施している。相談は常時実施しており、保健所や健康福祉センターでも実施している。

<エイズ検査相談件数と検査実施者数>

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
電話相談	443	418	346	402	388
来所相談	467	513	440	471	431
HIV検査	228	254	215	233	213

5 普及啓発

① 講演会・出前講座

区内の高校等を対象に「HIV/AIDSについて」や「自分のカラダのことを知ろう！性感染症について学ぼう！」をテーマに実施している。また、地域高齢者施設・病院関係者を対象に「エイズ・HIV感染症の最新知識～支援者として知っておきたいこと」をテーマに実施している。

② 区内大学祭でのパンフレットの配布

③ 広報紙・ポスター掲示・電子掲示板の活用

世界エイズデーに合わせて、正しい知識の普及啓発記事を「広報いたばし」に掲載するとともに、ポスターや電子掲示板を活用した啓発も行っている。

6 他自治体の取り組み

- 豊島区；「AIDS知ろう館」において、エイズや性感染症に関する資料を収集・展示している。
- 新宿区；年2回夜間のHIV検査や「男性のためのHIV・性感染症イベント」を実施している。
- 台東区；梅毒の即日検査を実施している。